

# 平成 30 年度 第 3 回三重県河川整備計画流域委員会 議事録

日時：平成 31 年 3 月 18 日（月）

15 時 00 分～16 時 20 分

場所：三重県勤労者福祉会館

5 階第 2 教室

## 1. 開 会

## 2. 主催者挨拶

## 3. 議 事

外城田川水系の河川整備計画について、以下のとおり議事を行った。

委員 相合川合流点上流の年超過確率は 1/5 で流量は 370(m<sup>3</sup>/s)となっているが、P30 の既往計画の流量 480(m<sup>3</sup>/s)より計画規模が小さくなっている。その理由を教えてください。

事務局 既往計画の相合川合流点上流における計画規模は 1/20 だが、今回の河川整備計画における計画規模は県内他河川の状況などを考慮し、計画規模を 1/5 としている。

委員 計画規模 1/5 は将来的な計画規模 1/30 での改修に向けた段階的な改修計画としての位置付けなのか。段階的な改修を行う理由は予算的なものか。

事務局 計画規模 1/5 での改修を早期に実施することで、上流の玉城町における浸水対策の早期実施を可能にしたいと考えている。

委員 上流の玉城町で浸水被害が多く発生しているが、玉城町は計画規模 1/5 で良いと考えているのか。

事務局 玉城町でも治水計画を検討しているため、玉城町との整合も図り、河川整備計画の計画規模を 1/5 としている。

委員 各種資料、特に環境に関する図面は、使用しているデータの作成年が分かるようにしてもらいたい。

事務局 了解しました。

委員 文献より重要種が確認されている。今回の河道掘削箇所と生息域が重ならないのか、確認が必要である。生息にはヨシ原が重要なので、現地調査をしっかりとってもらいたい。成虫は 5 月～7 月でないと確認できないし、幼虫もヨシ原をしっかりと確認する必要がある。

事務局 了解しました。

委員 基準地点は感潮区間となるのか。

事務局 基準地点は感潮の影響がほぼない地点となる。

委員 河道掘削は県道 37 号より下流と考えると良いのか。以前の資料には付いていた、生物が生息する箇所を地図上で整理した資料を付けてもらいたい。

事務局 河道掘削は県道 37 号の下流で実施する。資料についても対応したい。

委員 台風第 21 号における床上浸水は、どの地域で発生しているのか。

事務局 田丸の周辺や役場の付近でかなり浸水被害が発生している。汁谷川は被害が下流で発生していたが、外城田川は上流の玉城町の浸水被害が大きくなっている。

委員 外城田川下流は弥生時代の遺跡(紀元前から 3 世紀位)が多くあるため、河道掘削や築堤を実施する際は、注意が必要である。

事務局 了解しました。

委員 第 1 回と第 2 回のアンケートでは何が違うのか。

事務局 現在のところ、第 1 回と第 2 回の配布エリアは同じエリアを考えているが、質問内容は、第 1 回は流域の概要に関する質問で、第 2 回は河川整備計画整備内容に関する質問を考えている。

委員 河川整備計画では下流が計画規模 1/30、上流が計画規模 1/5 となっているが、その場合、水位は滑らかに連続するのか。また、上流の HWL は計画規模 1/5 における HWL なのか。

事務局 上流も下流も計画規模に係わらず同じ HWL である。水位は、下流から連続的に計算を実施している。

委員 相合川合流点の河道は、航空写真を見るとかなり土砂堆積が見られる。流下能力はこの様な土砂堆積を考慮して算定しているのか。難しいと思うが、多自然川づくりの工夫はできないのか。

事務局 現況流下能力は、最新の測量成果を用いて算定しており、測量時点の土砂堆積は考慮されている。施工については、河床を平坦にしない等の環境に配慮した施工を考えています。

委員 河川整備基本方針では相合川・有田川の現況流下能力が不足していると整理されているが、河川整備計画では改修が位置づけられていない。相合川流域で浸水家屋が多い可能性があるため、浸水実績図に家屋浸水の位置を落としてもら

いたい。また、整備実施後に台風第 21 号と同じ雨が降った場合における家屋浸水被害の軽減効果も示してもらいたい。

事務局 了解しました。

#### 4. 閉 会